

<p><b>1 学校教育目標</b></p> <p><b>校訓</b> 至誠一貫・進取向上・自治協同</p> <p><b>教育目標</b> 「文武一徳」の人づくり 知性を磨き体を鍛え、徳の備わった、社会のリーダーたる人材の育成</p> <p><b>めざす学校像</b> 『進学も部活動も元気な、生徒が主役の学校』 部活動の盛んな進学校として、地域から愛され、信頼される学校をめざす</p> <p><b>育てたい生徒像</b> 1 高い志と使命感をもった、社会に貢献できる生徒 2 心身を鍛え、何事にも積極的にチャレンジできるたくましい生徒 3 互いに協力しながら、主体的に行動できる生徒</p>
---

<p><b>2 現状分析</b></p> <p>本校は「『文武一徳』のひとつづくり」を教育目標に掲げ、全人的発達をめざした教育を伝統的に進めている。学校評価アンケートによると、この教育方針に基づく学校運営は生徒・保護者によく浸透しており、学校に対する高い信頼感が醸成されている。また、地域に対する文化活動・ボランティア活動を積極的に展開していることから、生徒・保護者だけでなく地域においても共感的な理解をいただいている。</p> <p>一方、進学実績については、昨年度は国立大学合格者数が前年度よりも増加したが、国公立大学合格者の割合は減少傾向にあり、大学進学に対応できる学力の向上を一層図っていくことが喫緊の課題である。</p> <p>そのために、今後も生徒の学力を高め、伝統の校風を維持発展させるために、進学意識の啓発と併せて、授業改善を軸とした学力伸長のための具体的手立て及び、勉学と部活動を両立するための休養日設定等の仕組みづくりを学校全体で取り組んでいく必要がある。さらに、生徒一人ひとりが抱える学習や学校生活に関する問題に対応した個別の教育相談や指導も初期対応に重点を置き、引き続き組織的に進めていく必要がある。</p>
--

<p><b>3 本年度重点を置いてめざす成果・特色、取り組むべき課題</b></p> <p>【平成30年度の重点目標】 基本姿勢「チーム豊浦！ 文武両道への挑戦！！」～ホップ・ステップ・ジャンプ～</p> <p>1 社会人となる基本マナーを身につけさせる 2 第一志望に合格させる 3 部活動は文武両道が実践できる環境をつくり、さらなる高みを目指す 4 情報を共有し、情報を発信し、連携を深める</p> <p>【平成30年度チャレンジ目標】 「初志貫徹」～120（いつも）TOYORER～</p>
--

4 自己評価					5 学校関係者評価		
評価領域	重点目標	具体的方策(教育活動)	評価基準	達成度	実践目標の達成状況の診断・分析	学校関係者からの意見・要望等	評価
教務	授業時間の確保	出張等による自習を時間変更等により解消する。	4 年間の自習時間が、5%以下であった。 3 年間の自習時間が、10%以下であった。 2 年間の自習時間が、15%以下であった。 1 年間の自習時間が、15%を超えた。	4	H31.1.18現在、総授業数11,391時間のうち、総自習時間は25時間で、割合は0.22%であった。内訳としては、1学期0.30%、2学期0.11%、3学期0.37%である。自習の理由は主に次の2通りであった。1つ目は、教員の急な体調不良による欠席である。その際は、該当授業を同じ教科の先生方でカバーできるかどうか、不可能ならば該当学年に呼びかけ、授業の振替をするなどの対応を行った。2つ目は複数科目同時展開の授業の際、出張のため変更が不可能な場合である。複数クラス・複数教員にまたがっているため、変更困難な場合がある。以上、年間で0.22%なので当初の目的を十分に達成していると判断できる。	○授業時間の確保については、よく努力している。 ○授業力の向上については、評価基準の持ち方を再考したらどうか。この基準では一人の教師が授業をして、全員が見学すれば100%となる。どれだけの教師が授業を見せたかが大切ではないか。	A
	授業力の向上	研究授業・互見授業を通して授業改善に努める。	4 研究授業・互見授業に1回以上参加した教員が100%であった。 3 研究授業・互見授業に1回以上参加した教員が90%以上であった。 2 研究授業・互見授業に1回以上参加した教員が80%以上であった。 1 研究授業・互見授業に1回以上参加した教員が80%未満であった。	3	国語・地歴公民・数学・理科・英語においては、年1回以上の研究授業を実施している。今年度は多い教科で6回実施した。互見授業については1・2学期に各1週間設けている。設定週間以外にも定期的に互見授業を行っている教科科目もある。研究授業・互見授業ともに教科・科目の枠を超えて参加している。指導者の年齢幅も広く、お互いに刺激しあいながら授業改善に役立っている。		
生徒	交通ルール・マナー順守の徹底	自転車点検を実施する。 交通安全教室を実施する。 登校指導を実施する。 全体集会における諸注意を実施する。	4: 十分指導ができ、自転車過失事故が5件以内かつマナーの徹底ができた。 3: 計画通り指導ができ、自転車過失事故が10件以内、かつマナーがほぼ守られた。 2: 計画通り指導ができたが、自転車過失事故が10件を超えた、またはマナーがあまり守られていなかった。 1: あまり指導ができず、自転車過失事故が10件を超え、かつマナーがほとんど守られていなかった。	3	1学期当初の車体安全点検及び3学期のステッカー点検等により、整備の徹底がほぼできた。交通安全教室、登校指導、全校集会での注意喚起及び生徒による啓発活動（風紀委員をサイクルリーダーとし点検活動を実施）等を実施し、交通安全意識の啓発を図ることができた。自転車運転に係る交通事故は昨年同様5件（うち1件は自損）であり、一定の指導の効果はあったと思われる。しかし、交通ルール違反に関する外部からの情報提供がある。全校指導や校外指導を随時行っているが、引き続き指導を徹底していきたい。	○評価の中に交通マナーやいじめを含むものがありわかりにくい。 ○町のなかでも豊高生はよく挨拶をする。 ○いじめの初動対応もしっかりしている。トラブルの発生率とはどういうものかわかりにくい。	A
	豊かな心の育成	校内外での挨拶、各種活動への積極的参加等の継続的指導を行う。 日常的なコミュニケーション活動や面談等による意識啓発を図る。	4: 問題行動や人間関係によるトラブルの発生率が5%未満であった。 3: 問題行動や人間関係によるトラブルの発生率が5%以上10%未満であった。 2: 問題行動や人間関係によるトラブルの発生率が10%以上20%未満であった。 1: 問題行動や人間関係によるトラブルの発生率が20%以上であった。	4	生徒課及び学年団合同による登校指導や平素の授業・部活動等による礼法指導及び生徒観察の徹底により、挨拶は励行できており、外部からの評価も高い。部活動加入率は93%であり、学校の諸行事、LHR活動及び地域の伝統行事、ボランティア活動等へ積極的に参加した。各HRRにおける個人面談を、学期1回プラス必要に応じて適宜実施し、教育相談室や校内いじめ対策委員会等と連携して、情報共有・早期対応・記録保存を行った。数件の人間関係のトラブルがあったが早期に解決できた。公共の場におけるマナーについて、外部から苦情を受けることがあったが、好評価も複数あった。社会性・公共心と状況判断力の向上にも努めたい。		
進路指導	学習時間の確保と学習習慣の確立	学年毎に、家庭での学習時間を自己管理できるように促し、学習習慣の確立につながる取組を実施する。	4: 家庭での学習習慣が身についたと自覚した生徒が80%以上であった。 3: 家庭での学習習慣が身についたと自覚した生徒が60%以上であった。 2: 家庭での学習習慣が身についたと自覚した生徒が40%以上であった。 1: 家庭での学習習慣が身についたと自覚した生徒が40%未満であった。	3	学習習慣に繋がる取り組みとして、チャレンジタイムを1学年の初期指導で実施した。また、生徒各自が家庭学習の自己管理ができる事を目標に、学習手帳を導入したが、積極的に活用している生徒は少数である。生徒自身がPDCAサイクルを身につけていくためには、クラス担任や教科担任、部活顧問等からの、さらなるアプローチが必要であると思われる。	○「子どもが家でよく学習している」という保護者の評価は全学年で6割未満である。1年生においては、約30%である。保護者の思いと評価の開きがあるのではないか。 ○運動が苦手な子どもをどう取り込むか、進学実績をあげて、中学校にアピールする必要がある。 ○教員の授業方法についても改善する必要があるのではないか。	B
	進路情報の提供の充実	進路だよりの発行や保護者向け進路通信を定期的に発行し、進路に関する情報を生徒・保護者に提供し進学意識の啓発を促す。	4: 学校評価アンケートの「情報提供が進路決定に役立っている」項目で肯定的評価が80%以上であった。 3: 学校評価アンケートの「情報提供が進路決定に役立っている」項目で肯定的評価が60%以上であった。 2: 学校評価アンケートの「情報提供が進路決定に役立っている」項目で肯定的評価が40%以上であった。 1: 学校評価アンケートの「情報提供が進路決定に役立っている」項目で肯定的評価が40%未満であった。	3	学校評価アンケートでは、肯定的評価が77.3%の結果を得ることができた。保護者対象進路ガイダンスの参加者も6月の3学年対象では31名が参加。12月1、2学年対象では72名が参加し、事後アンケートの結果も好評であった。進路だよりや保護者向けの進路通信は、発行が不定期であったため十分な情報発信とはいかなかった。この点については来年度改善を要する。		

総務	学校安全の徹底	各学期ごとに施設設備等の安全点検を実施する。	4: 施設設備安全点検後の危険個所改善率が90%以上であった。 3: 施設設備安全点検後の危険個所改善率が70%以上であった。 2: 施設設備安全点検後の危険個所改善率が50%以上であった。 1: 施設設備安全点検後の危険個所改善率が50%未満であった。	4	各学期ごとに、すべての教員が担当掃除区域ごとに安全点検を実施した。不良個所については事務室の協力により補修ができ、安全な学校生活ができる環境を維持している。	○ホームページはとても見やすくなっており情報も更新されているので、継続してほしい。 ○全体的に評価基準がこれでよいのか、見直した方がよい。例えば、ホームページを何回以上更新したら何%としている学校もある。「役立つ学校情報」という言葉ではなく、目指す学校像に対してうまく目標が立てられているかが大切。 ○図書室の利用については改善が必要。良い施設があるので利用を促した方がよい。	B
	情報提供の充実	ホームページや配付するプリント等を十分に活用して、役立つ学校情報の整理・発信を行う。	4: 学校評価アンケートの学校情報発信に関する項目(質問1)で肯定的評価が80%以上であった。 3: 学校評価アンケートの学校情報発信に関する項目(質問1)で肯定的評価が60%以上であった。 2: 学校評価アンケートの学校情報発信に関する項目(質問1)で肯定的評価が40%以上であった。 1: 学校評価アンケートの学校情報発信に関する項目(質問1)で肯定的評価が40%未満であった。	3	豊浦高校ホームページについて、常に最新の情報が発信できる環境を整えるべく、管理職の意向を踏まえつつ教頭の協力もえながら、昨年よりもはるかに質の高い情報を発信できるようになった。		
	図書室利用の促進	生徒・教職員のニーズに応じた資料を整え、特に生徒については、読書の習慣を定着させて本の貸出の増加を図る。	4: 今年度、本校図書館で本を借りた者が全校生徒の60%以上であった。 3: 今年度、本校図書館で本を借りた者が全校生徒の50%以上であった。 2: 今年度、本校図書館で本を借りた者が全校生徒の40%以上であった。 1: 今年度、本校図書館で本を借りた者が全校生徒の30%以上であった。	2	本校図書室で本を借りた生徒が45%と目標の50%には達しなかった。インターネットが情報収集の中心となり、生徒の多くが部活動に熱心に参加する状況にあることから、本校でも活字離れが進みつつある。一冊の書物を読み通すことから得られる感動や豊かさを伝える場や機会をいかに作り、啓発していくかが来年度の課題である。		
保健体育	体力の向上	スポーツテストの総合判定においてA判定が1年生15%以上2年生25%以上3年生35%以上を目指し授業の充実を図る。	4 3学年とも目標以上であった。 3 2学年において目標以上であった。 2 1学年において目標以上であった。 1 全学年とも目標に達していない。	4	本校は、運動部加入率が高く、その活動実績も著しい。体育的行事や体育の授業においても積極的に取り組む生徒が多く、体力・運動能力の向上が著しい。	○歯は重要なので、保健室と顧問の連携を図る必要がある。部活をしている生徒が歯の治療には行ける雰囲気をつくる必要があるのではないか。 ○歯の項目が学校評価の基準となるのははじめてである。要治療の割合が何パーセントか、その上で治療に行った割合を出さないと、十分に吟味された指標が提供されたとは言えない。来年の変化に期待する。	B
	健康の保持増進	継続的に個別・集団の保健指導を行い虫歯の治療率を上げる。	4 治療した者が70%以上であった。 3 治療した者が50%以上であった。 2 治療した者が30%以上であった。 1 治療した者が30%未満であった。	1	例年歯科受診率の向上に向けて早期受診を促しているが、結果として依然低値のままである。個別指導、定期的な声掛けを継続して行っており、本人の意識の向上が必要であると思える。次年度も継続して取り組んでいきたい。		
1年	高校生活での学習習慣確立を意図した自己管理能力の育成	スケジュール帳を活用して、PDCAサイクルの定着を図り、予習、復習、テスト対策等の学習が効率的に行われるよう指導する。	4 年度末アンケートにて、「自己管理能力が身に付いた」と回答した生徒が70%以上であった。 3 年度末アンケートにて、「自己管理能力が身に付いた」と回答した生徒が60%以上であった。 2 年度末アンケートにて、「自己管理能力が身に付いた」と回答した生徒が50%以上であった。 1 年度末アンケートにて、「自己管理能力が身に付いた」と回答した生徒が50%未満であった。	2	生徒アンケートを実施(2月5日) 164名の生徒が回答 自己管理能力が 「身についた」 10名(6%) 「ある程度身についた」 81名(50%) 「あまり身につかなかった」 66名(40%) 「身につかなかった」 7名(4%)の結果を得た。 以上により、「身についた」あるいは「ある程度身についた」が全体の56%となるため、評価基準に基づき、達成度は「2」と判断した。 生徒に限らず、学習や様々な予定の管理・実行は時としてうまくいかないことが多い。生徒は日頃から部活動等で忙しい中、文武両道を目指した自分の理想像を追い求めていく過程で、様々な葛藤との対峙を繰り返してこのような評価になったものと思われる。	○自己管理能力は家庭学習も含まれている。達成が十分認められているかという点で考えると改善を要する。	C
2年	進路を意識した学習習慣の定着	○ 面談やLHR、総合的な学習時間、学校行事等を充実させる。 ○ 朝学を実施する。特に、週末はNOLTYスコラ手帳による計画、振り返りを行う。また、手帳の活用を促す。 ○ HRや教科指導、学年便りによって、進路に関する情報提供および指導・啓発を行う。 ○ 学校生活への意欲のある真剣な取組を促す。 ○ 部活動顧問との連携を図る。	4: 年度末アンケートにて、「進路を意識した学習習慣が定着した」と回答した生徒が75%以上であった。 3: 年度末アンケートにて、「進路を意識した学習習慣が定着した」と回答した生徒が50%以上75%未満であった。 2: 年度末アンケートにて、「進路を意識した学習習慣が定着した」と回答した生徒が25%以上50%未満であった。 1: 年度末アンケートにて、「進路を意識した学習習慣が定着した」と回答した生徒が25%未満であった。	3	年度末アンケートの生徒による自己評価では、「進路を意識した学習習慣が定着した」と回答した生徒が69.6%であり、若干の不安は残るが、比較的満足の結果となった。 自己評価であるため、定着の強弱や質は生徒個人の判断に任されており、個々異なるものと思われるが、模試における「希望大学の記入」や「スタディサポートのアンケート」、「個人面談」等から診断しても、妥当な結果と思われる。	○生徒がそれぞれの進路を目指して勉強に取り組んだ割合が約7割である。より一層の取組を期待したい。	B
3年	進路先を自ら決定する能力及び進路実現に向けて実行する能力の涵養	面談・個別指導を行い進路指導の徹底を図る。放課後や土曜日に学校内に勉強会場を設けて生徒が主体的に学習できるように支援する。	4: 国公立大学合格者が40名(23%)以上であった。 3: 国公立大学合格者が35名(20%)以上であった。 2: 国公立大学合格者が30名(17%)以上であった。 1: 国公立大学合格者が30名に届かなかった。	1	2月13日現在、A0入試と推薦入試において22名の国公立大学合格者(国立・水産大学校合格3名を含む)が出ている。この人数は例年より多い(昨年は15名、一昨年は16名)が、一般入試での合格者数は厳しい見通しである。	○国公立を志望している生徒がどれくらいいて、その中で合格率がどうなのか。目標が国公立だけになっているので評価しづらい。課題の設定自体の再考を要する。	C
業務改善	業務時間の短縮	会議時間の短縮、部活動の週一休養日実施等を推進し、多忙化の解消を図る。	4: 業務時間の短縮率が平成28年度比20%以上であった。 3: 業務時間の短縮率が平成28年度比10%以上であった。 2: 業務時間の短縮率が平成28年度比5%以上であった。 1: 業務時間の短縮率が平成28年度比5%未満であった。	2	業務時間の短縮率は、1月末現在平成28年度比でマイナス7.3%であった。 教員一人あたり月平均で86時間の時間外業務が行われており、部活動指導のため、100時間を超える教員もいる。業務の改善、年休の取得促進、時間の有効活用等を中心とした多忙化解消に継続して取り組む必要がある。	○仕事が減らない中、業務時間の削減は難しい。部活動の指導も含め、教職員はよくやってもらっているが、職員一人当たりの残業時間が約86時間は多い。	B
	教職員の健康管理	健康診断結果に基づいた健康管理を行い、面談等の機会を使いながら受診率の向上を図る。	4: 再検査者の受診率が100%であった。 3: 再検査者の受診率が80%以上であった。 2: 再検査者の受診率が60%以上であった。 1: 再検査者の受診率が60%未満であった。	2	再検査対象者は全教職員の64.8%である。そのうち1月末現在の再検査の受診率は62.9%で、県立学校の平均57.8%と比較すると上回っているが、受診率100%に向けて、働き方改革及び健康管理の啓発に努める必要がある。		

5 学校評価総括（取組の成果と課題）	
教務	生徒の円滑な学校生活が送れるため、そして学力向上に必要な不可欠な上記の2点を今年度の重点目標に掲げた。「授業時間の確保」については、例年以上に意識し取り組んだ。該当教科・科目の時間変更だけでなく、急な教員の病気によるものは、学年にも協力をお願いし、さらに難しい場合には同じ教科の教員が授業をするといったことを行った。よって平成31年1月18日現在の自習率が0.22%という少ない結果につながった。「授業力の向上」について、研究授業は初任者研修や中堅教員等資質向上研修、さらに中高連携事業に係るものを含み、例年以上実施できた。その後の研究協議では、積極的な意見が飛び交い、授業担当者だけでなく参加者全体で意識の向上ができたと思われる。互見授業についてもほとんどの教員が自身の教科だけでなく、他教科・科目の枠を超えて多く参観し、よきノウハウを学びあった。
生徒指導	生徒課内だけでなく、他分掌及び校外生徒指導機関と連携した組織的・計画的・予防的な指導の継続実施により、100%とは言えないが各種問題を最小限に抑えることができた。交通安全については、「自他の安全尊重」を軸に、同じ指導目標を数年間地道に継続実施したことにより、自転車事故の減少や交通マナー（自転車・徒歩）の改善が見られる。しかし、一部に規範意識が不足している生徒もおり、外部からの苦情も数件受けていることから、規範意識や危機管理能力の向上を目的とした継続指導が必要である。豊かな心の育成については、挨拶の励行が浸透しており、外部からの評価も高い。また、部活動・学校行事等では生徒主体の自主的・計画的活動がみられる。生徒と教員とのコミュニケーションを深める工夫が行われており、HR担任や教育相談室による面談（保護者面談も含む）も計画的に実施した。日常的な生徒観察とともに、毎学期のいじめ・被害等のアンケート調査により、多様なトラブルの確認ができた。これによりトラブル発生時には早期対応・早期解決することができた。生徒は全体的に能動的で落ち着いた学校生活を送った。しかし、人間関係のトラブルは常に起こり得るものであり、以上の取組を基盤にしながらいずれの予防的指導体制を発展させたい。教育相談活動は、教育相談室長を中心に各学年担当の教育相談係がHR担任や部活動顧問等と連携して推進した。中学校と連携した新入生の情報交換や学校カウンセラーの活用、ケースによっては医療機関とも連携した取組等と合わせ、様々な問題が概ね解決し、HR担任のサポート役として教育相談室が有効に機能した。生徒の多様化により、基本的な生活習慣の確立や学校不適応に対応した指導力の向上が今後ますます必要であり、現在、別室滞在や通級指導に関する指導体制の整備に取り組んでいる。今後教員の研修や家庭・専門機関・地域関係諸機関との連携を深め、教育相談体制の充実を進めたい。
進路指導	1年次の初期指導で行われるチャレンジタイムや大学訪問で、入学当初の高校生活の学習習慣や大学進学に関する意識付けはできたと思われる。進路関係の行事や講演を受けて、生徒自身が、学習に対する自己管理能力を高めることを目指したが、年度末のアンケートでは「学習に対する取組を自分で管理できるようになった」と答えた生徒は、「思う・まあそう思う」を合わせて、30%前後であった。自己管理能力をより高めるためには、進路指導課による行事や講演だけでなく、各ホームルームや部活動においても、積極的に生徒へ働きかけることが今後の課題である。
総務	学校の施設設備については、毎学期ごとに考査期間中を利用して、すべての教員が担当の掃除区域を中心に安全点検を行い、事務室の協力の下で、不良個所の点検を常に行ってきた。今年度も防火や防災に備えた避難訓練を行い、消防署の協力を得ながら、消火器の使い方等の説明もあった。また、ホームページについては、昨年の反省をもとに、より新しい情報を的確に伝えられるように、ホームページの委員会で要望や改善点を精査しながら、昨年よりも質の高い内容を提供できるようになった。図書においては、今年度も生徒・教職員の希望図書を積極的に購入し、常に新しい文庫を提供できるように努めた。
保健体育	体育の授業や運動部の活動を通して、体力・運動能力の向上は図られている。生徒自ら安全に取り組む姿勢をもっと身につけさせたい。う歯の治療については、毎学期ごとに治療勧告をしたものの、治療率は上がらなかった。
1年	1学年では年間を通して、月曜日の朝学の時間を利用してスケジュール帳を記入させ、提出を求めた。担任・副担任で協力し、前週の学習時間等を確認し、週間目標に対する振り返りと次週の目標設定までを行わせた。部活動等で忙しい生徒が多く、スケジュール帳記入にあまり真剣に取り組めない生徒も少なからず見られたが、予定を確実に把握すること、また計画、実行し改善へとつなげていくことがよりよい生活サイクルを生むということへの意識づけにはなっていないかと思う。半数以上の生徒が自身の自己管理能力の定着に対して肯定的にとらえていたことは、取組の成果と考えてよいと思う。今後は意識づけさせた習慣をより定着させていくことが課題である。自ら計画、実行し、反省ののち、改善するという流れが、生徒の学習活動やその他の生活全般に好影響を与えるよう持っていきたい。
2年	学年内教員や教科担当、部活動顧問等の具体的方策により、進路に対する意識は1年次に比べ、かなり高まっている。このことに伴い、具体的な学習への取組も定着しつつある。課題としては、「定着の強弱や学習内容・時間において残る疑問」、「スコラ手帳による計画、振り返りが不得手な生徒の存在」、「LHRや総合的な学習時間の内容に対する再検討」、「定着しなかったと答えた約30%の生徒への指導」等が挙げられる。進路に向けた学習については、今以上に「計画性を持つ」、「習慣化する」、「集中して取り組む」ことを意識し、時間だけでなく、質を高めていくことが必要であると思われる。
3年	この学年は入学時点（定員割れでスタート）で成績上位者が例年に比べて少なく、1年次より『学年だより』では学習に関する内容を幾度も掲載し勉強への刺激をし、2年次からベネッセグループの『Classi』というSNS端末を使った勉強支援ツールを導入する等、学年独自の学力向上への取組も実施してきた。しかし、模擬試験の結果の推移から、一般入試だけでは国公立大学に合格できる生徒が多く出ないと予測された（10月実施模試では偏差値50以上は92名中3名しかいない）。そこで、具体的方策（教育活動）以外に、AO入試と推薦入試を活用し、（1）生徒の国公立大学の受験機会（回数）を増やす、（2）AO入試と推薦入試受験者を増やすことで学年全体が例年より早く受験を意識させ生徒各自の受験勉強へのスターを早くさせる、という戦略を立てた。成果は、2月13日現在、例年より多い20名の国公立大学者が出ているが、一般入試では厳しい見通しである。課題は、国公立大学受験層の生徒たちの幾人かが本校を指定校とする私立大学へ進学することになったことである。
業務改善	ノー残業デーの設定やICカードの導入により、時間管理の意識付けはできた。本校の教育改革と合わせ、教育の質を落とさない業務改善が急務である。業務の効率化、負担の平準化をはかる必要がある。
6 次年度への改善策	
教務	2つの重点目標はともに良い結果だと自己評価をするが、「授業時間の確保」は、今年以上に自習が0時間に少しでも近づこう、教科や学年に働きかけ取り組んで行く。また、「授業力の向上」について、研究授業は特定の教科で年1回以上実施しているが、特定の教科に限らず実施していけるよう投げかける。互見授業は、校内だけでなく中高連携もあるので、積極的に交流し、中学校の授業形態も参考にする。また、授業アンケートも生徒目線の貴重な意見なので、これまで以上に参考にして、次年度はさらに「授業力向上」を推進していきたい。
生徒指導	「安全」については、自転車に関する事故・苦情等の交通関係だけでなく、不審者事案や災害関係にも対応するため、安全の三領域（生活・交通・災害）に関する対策を、本年度以上に具体化させたい。防犯訓練、交通安全教室、災害避難訓練を、警察、消防、その他専門機関等の指導を受けながら、生徒会やHR活動において生徒が主体的に行動できるように啓発指導したい。これらを通じて、生徒の生活実態に即した危機管理能力（危機回避×危機対応）を具体的・実践的な内容にスキルアップさせる。「豊かな心の育成」・「教育相談」については、引き続き、校内での情報共有と共通理解、家庭、中学校、専門機関との連携を重視したい。特に、教員の研修を深めて生徒の観察力を高め、未然防止、早期発見・解決を図る。同時に、教員一人で抱え込まず、本校生徒指導の長所である組織的対応力の充実を進めたい。
進路指導	生徒自身の進路意識（将来の夢、志望大学など）を3年間を通して継続的に向上させるため「総合的な学習の時間」の見直しを図り、また、生徒の自己管理能力を高めるために、生徒への積極的な働きかけを学校全体で取り組んでいきたい。そのために学年・教科等との連携・協力体制が必要と思われる。
総務	学校の施設設備の安全点検は、危険個所の情報を素早くキャッチしながら、早急に対応できる体制の構築に努めたい。防火・防災訓練については、来年度も計画的に行いながら、生徒や教職員の意識の高揚に努めたい。豊高ホームページについては、ホームページの委員会を開きながら、魅力ある豊高高校を、豊高高校に興味を持つ中学生やその保護者、また在校生やその保護者、そして多くの卒業生に発信できるように、内容を改善しながら、さらなる質の向上に努めたい。また、PTA総会は、昨年より多くの保護者の参加を得ながら開催できたが、来年度も今年度の反省点を踏まえながら、開かれた豊高高校を保護者に理解してもらうために、学校から様々な情報を発信していきたい。
保健体育	運動意欲が高い生徒が多いだけに、けがなどの発生も少なくない。昨年の夏は猛暑で、体育行事や授業などで様々な対応をしたが、それでも熱中症などの健康被害が起こった。この経験を活かし、様々な場面を想定した安全管理・健康指導を心がけたい。う歯の治療の指導については、全体指導の場面でももっと声かけをしていきたい。
1年	生徒の自己管理能力を高めるのに即効性のある方法はないと考える。生徒が計画、実行、反省、改善していけるよう地道に手をかけて支援していくことが肝要である。改善策としては学習時間の記入を確実に求め、教員側でも管理、掌握しておけば、面談等でも有効に活用でき、家庭学習の促進につなげていくことができると考える。時間と手間のかかることではあるが、通年ではなく時期を設定して行うなど方法論を模索して、導入の検討をしてみたい。また教員が日頃の授業やその他の場面において、課題や小テストの告知の際などにスケジュール帳への記入を求める頻度を増やすことも必要である。さらにeポートフォリオの大学入試への導入が決まっているこの学年においては、活動ごとに頻りに記録をとどめていくよう指導し、活動足跡のわかるものとしての活用も増やしていきたい。
2年	生徒の進路実現に向けた意識をさらに高めるため、次学年（3学年）では次のようなことに努めたい。 1 進路に関する日程、内容等の情報を十分に提供し、生徒各々が進路実現までの計画を確実にできるような指導をする。 2 引き続き部活動顧問との連携を図り、また授業や授業外の指導を工夫することで、学習習慣定着を確実にする。 3 進路指導課、学年の連携を密にし、LHRや総合的な学習時間の内容の工夫、進路に関する多くの情報交換、情報共有を行う。
3年	生徒のより早い受験勉強スタートを画策して始めたAO入試・推薦入試の利用であったが、成績上位層の関東・関西・福岡にある有名私立大学への流れを誘発してしまった側面もあるのではないかと考えられる。経験則からAO入試や推薦入試を重視した受験指導を行うと、生徒の一般入試に対応した学力は下がってくる危険性がある。あくまでも、一般入試突破を第一に掲げて受験指導する姿勢を維持することが大切である。（今年度は一般入試突破を第一に掲げて受験指導したつもりでも、生徒の動向をみると、生徒には違っていたのかもしれない。）
業務改善	時間外業務の短縮に向け、より一層教職員の意識改革をする必要がある。部活動における週1日の休養日はかなりの部分で改善できた。教職員の負担軽減は全国的な問題であるとの認識のもと、業務の精選、年休の積極的な取得奨励、業務改善研修の導入等、教職員が生き生きと生徒に向き合えるような取組を行っていきたい。